

第13章 1.東アジアの激動 c. 洋務運動の進展と日清戦争

①太平天国鎮圧の中心となった漢人（[1 曾国藩]、李鴻章、左宗棠ら）の台頭、政治の中心となる
→洋務派官僚という

[2 西洋]の軍事・科学や取り入れた改革=[3 洋務]運動を進める（[4 同治の中興]）

スローガン=[5 中体西用]=6_中国の精神をのこしながら西洋の技術のみを導入する

限界=[7 技術]に限定し[8 富国強兵]をめざす[9 政治や社会体制]には手をふれない
→欧米諸国には追従的、国内・周辺諸国には高圧的

②1884~85 [10 清仏]戦争、1894~95[11 日清]戦争の敗北で挫折

日清戦争（[12 1894 ~ 95]）=[13 朝鮮]への進出・植民地化をめざす日本と、宗主権を主張する清国との間の戦争、朝鮮での反封建農民運動（[14 甲午農民戦争]）をきっかけに発生。[15 朝鮮半島]や[16 東北部]南部が戦場となった。軍力は同等であったものの、中央集権化など政治や経済の近代化の進んだ[17 日本]が圧勝、[18 下関]条約を締結、日本は[19 大陸進出]の動きを加速、清は半植民地化の道を進めることとなった。

→1905年、日清戦争の結果、[20 下関]条約を締結

1) 朝鮮の独立承認、2) 日本への遼東半島、[21 台湾]などの割譲、3) 多額の賠償金支払

太平天国の乱を鎮圧した曾国藩、[22 李鴻章]らはその後、中国に欧米の技術の導入を図り、[23 洋務]運動をはじめた。この運動は「[24 中体西用]」というスローガンにも示されるように社会変革を嫌い、軍事や科学技術などの導入をはかるものであった。また西洋には追従的であるがアジア諸国や中国国内には高圧的でベトナム、朝鮮の支配強化をめざすとともに、国内の反乱鎮圧などの強行策をとったが、1884~85[25 清仏]戦争や1894~95[26 日清]戦争で敗北をきつし挫折、逆に列強へ進出の機会を与えることになった。

2. 中国の半植民地化と辛亥革命 a. 中国利権の争奪

①日清戦争以後、列強の中国進出本格化

1) 列強の租借地の承認

2) [27 鉄道敷設]権や鉱山採掘権、関税特権など勢力圏の設定の承認

3) [28 資本]の輸出をすすめる→外国人経営の[29 工場]設立や[30 政府借款]の受け入れなど

列強の勢力圏

ロシア=旅順・大連（[31 遼東]半島南部）を租借、[32 東清]鉄道敷設権を獲得

ドイツ=[33 膠州湾]（中心地：青島）を租借し山東省を勢力圏とする

フランス=[34 広州湾]を租借

イギリス=[35 九竜]半島（香港の周囲）[36 威海衛]（山東半島先端部）を租借

②アメリカ 1899年国務大臣ジョン=ヘイ 「[37 門戸開放]宣言」を発表

中国の門戸開放・[38 機会均等][39 領土保全]を提唱

1895年、日清戦争の結果締結された[40 下関]条約の結果、日本が[41 台湾][42 遼東]半島・澎湖島などの領土の割譲を獲得したこともあって、列強の中国進出を本格化させるきっかけとなった。列強は租借地や鉄道敷設権、鉱山採掘権などを獲得した。まず、ロシアは[43 ドイツ][44 フランス]とともに日本に圧力をかけ、日清戦争で日本が獲得した[45 遼東]半島を清国に返還させ、かわりに[46 東清]鉄道の租借権を獲得、つづいてこの半島南端を租借した。またドイツは[47 膠州湾]を、フランスは[48 広州湾]を租借し、イギリスは[49 九竜]半島と[50 威海衛]を租借、各国はそれぞれ勢力圏を設定した。

こうした動きに対し、[51 米西]戦争で[52 フィリピン]やグアム島を植民地とし本格的にアジア進出に乗り出してきたアメリカは国務長官[53 ジョン=ヘイ]の名で、[54 門戸開放][55 機会均等][56 領土保全]を内容とする宣言を發し中国市場へ割り込みを図った。

③ロシア

1689ネルチンスク条約…清と国境線を画定
=対等平等な内容

↓
19世紀→極東への進出を強化→[57 満州]（東北部）、蒙古、朝鮮方面への進出をめざす

1858アイグン条約、1860[58 北京]条約
=[59 沿海州]など獲得

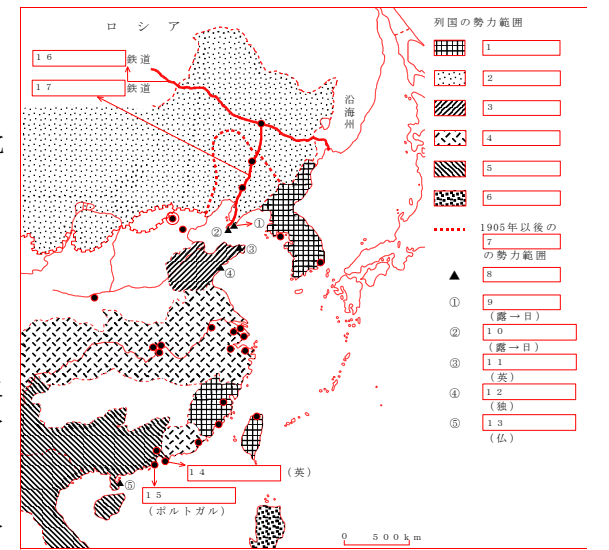
↓
1890代[60 シベリア]鉄道の敷設（フランスの協力）

↓
1895[61 三国干渉]・・・仏、独とともに日本に圧力をかけ日清戦争で獲得した[62 遼東]半島を返還させる。

↓
東清鉄道敷設権獲得、[63 旅順][64 大連]を租借、朝鮮半島への進出をすすめる

↓
[65 日本]との対立激化→1904~05[66 日露戦争]勃発へ

日露戦争（[67 1904~05]）・・・[68 朝鮮]半島の確保、さらに[69 満州]地方への進出をめぐる[70 日本]と[71 ロシア]の間の戦争。おもに[72 満州]を戦場として戦われた。[73 日本海海戦]で日本海軍が勝利するなど戦争は日本の優勢のうちにすすんだが、日本は[74 戦費不足]、ロシアでは[75 血の日曜日]事件に始まる[76 ロシア第一革命]の発生などで戦争を続ける余裕がなくなるなか、アメリカ大統領[77 セオドア=ローズヴェルト]の仲介で[78 ポーツマス]条約を締結した。この条約の中で日本は[79 韓国]（※朝鮮から改称）の保護権を獲得し日本の韓国植民地化の方針を既成事実化した。さらに[80 旅順・大連]の租借権や長春以南の[81 南満州]鉄道およびその付設地の獲得などで[82 大陸進出]を本格化した。



東アジアにおける列強の勢力圏